

堀田馬三

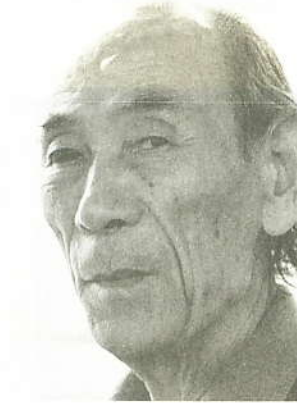
元治元年徳山藩の名門鉄砲組頭、審美の三男として生まれる。明治15年19歳で東京に遊学、23年東京帝大英法科を卒業し、司法官となり判事に累進、東京地方裁判所部長、大阪および東京控訴院部長、大審院判事となり、大正13年退職、郷里の新堀に隠棲する。徳山毛利家より懇請されて執事となり、また第15代徳山町長となったが、在職満3年にして辞職した。頭脳明せきな判官らしい人であった。



末次信正海軍大将記念碑



まどみちお



“ぞうさん・ぞうさんお鼻が長いのね・
そうよ・母さんも長いよ”という歌を
ごぞんじですか？

日本全国で歌われている、この歌の作
詞者は石田道雄といい、ペンネームを「
まどみちお」という。

明治42年徳山町西辻（現在の辻たから
市場西側）で生まれ、大正8年3月まで祖父と二人暮らしの生活
であったが、徳山小学校（当時岐陽尋常小学校）4年（10歳）の
とき、両親が移住されている台湾に渡られた。

台湾の城南小学校から高等小学校を卒業、台北工業学校を昭和4
年卒業（20歳）し、台湾総督府に就職した。まどさんは15歳ご
ろから詩を書くようになり、昭和9年雑誌に童謡を投稿し、北原白
秋先生から特選に選ばれ、以後詩や童謡に専念し「一年生になつた
ら」など子供たちに親しまれている童謡や詩を数多くつくり、その
作品は高く評価されている。

特にまどさんの詩は、幼いころの徳山の思い出や、自然が背景に
なっているものが多いといわれ、現在は神奈川県川崎市に住み、活
躍している。

